

AI フルーエンシー：重要用語チートシート

本家「AI Fluency: Key Terminology Cheat Sheet」(Anthropic) の非公式・日本語訳版です。用語は KAKEHASHI 翻訳辞典に準拠しています。暗記する必要はありません。必要なときに参照してください。

AIフルーエンシーの中核フレームワーク用語 Core AI Fluency Framework Terms

AIフルーエンシー AI Fluency

効果的・効率的・倫理的・安全なやり方でAIシステムと協働する力。進化し続けるAI技術に対応するための、実践的なスキル・知識・洞察・価値観を含みます。

4D (4つのD) The 4Ds

AIフルーエンシーの4つの中核となるカー—委任・描写・見極め・確認責任。

委任 Delegation

どの作業を人がやり、どの作業をAIがやり、両者のあいだで作業をどう分けるかを決めること。自分の目的やAIの能力を理解し、協働のしかたを戦略的に選ぶことを含みます。

・課題の把握 Problem Awareness

AIを巻き込む前に、自分の目的と作業の性質を、はっきりと理解すること。

・プラットフォームの把握 Platform Awareness

さまざまなAIの、できること・できないことを理解すること。

・タスクの委任 Task Delegation

人とAIそれぞれの強みを生かせるよう、作業を思慮深く分けること。

描写 Description

AIシステムと効果的にやり取りすること。望む成果をはっきり定め、AIの進め方を導き、AIにとってほしいふるまいややり取りを具体的に伝えることを含みます。

・成果物の描写 Product Description

出力・形式・聞き手・スタイルの面から、何がほしいかを定めること。

・プロセスの描写 Process Description

AIがどう取り組むかを定めること。たとえば、たどってほしい手順を一つひとつ示すなど。

・ふるまいの描写 Performance Description

協働中のAIのふるまいを定めること。たとえば、簡潔か詳しいか、率直に意見するか寄り添うか、など。

見極め Discernment

AIの出力・プロセス・ふるまい・やり取りを、思慮深く批判的に評価すること。品質・正確さ・適切さを見定め、改善すべき点を判断することを含みます。

・成果物の見極め Product Discernment

AIが生み出したものの質（正確さ・適切さ・筋の通り・関連性）を評価すること。

・プロセスの見極め Process Discernment

AIがどう答えにたどり着いたかを評価し、論理の誤り・注意の抜け・不適切な推論の段階がないかを見ること。

・ふるまいの見極め Performance Discernment

やり取り中のAIのふるまいを評価し、その伝え方が自分のニーズに合っているかを考えること。

確認責任 Diligence

AIを責任を持って、倫理的に使うこと。AIシステムややり取りについて思慮深く選び、透明性を保ち、AIの助けを借りた成果に責任を引き受けることを含みます。

・制作の確認責任 Creation Diligence

どのAIシステムを使い、どうやり取りするかを、慎重に考えること。

・透明性の確認責任 Transparency Diligence

自分の仕事におけるAIの関わりを、知っておくべき相手に対して正直に明かすこと。

・公開の確認責任 Deployment Diligence

自分が使う・共有する成果物について、検証し、責任を持って引き受けること。

人とAIの関わり方（3つのモード） Human-AI Interaction Modes

自動化 Automation

人の具体的な指示にもとづいて、AIが特定のタスクを実行すること。人が「何をすべきか」を定め、AIがそれを実行します。

拡張 Augmentation

人とAIが「考えるパートナー」として協働し、一緒にタスクをこなすこと。両者が成果に寄与しながら、行ったり来たりやり取りを重ねます。

エージェンシー Agency

人がAIを設定し、自分に代わって自律的に動かすこと（ほかの人やAIとのやり取りも含む）。具体的な動作を指定するのではなく、AIの知識とふるまいのパターンを形づくりします。

AIの技術的な概念 AI Technical Concepts

生成AI Generative AI

すでにあるデータを分析するだけでなく、新しいコンテンツ（文章・画像・コードなど）を生み出せるAI。

大規模言語モデル（LLM） Large language models

膨大な量のテキストデータで学習し、人間の言葉を理解し生み出す生成AI。

Claude Claude

Anthropic の大規模言語モデルのファミリー。

パラメータ Parameters

AIモデルの内部にある数値で、情報をどう処理し、言葉どうしの関係をどう結びつけるかを決めるもの。現代のLLMは数十億のパラメータを持ちます。

ニューラルネットワーク Neural networks

生物の脳に似ているが別物の計算システム。層状につながったノードが、学習を通じてデータからパターンを学びます。

トランスフォーマー・アーキテクチャ Transformer architecture

2017年に登場した画期的なAI設計。長い文章でも語と語の関係に注目しながら、テキストの並びを並列に処理できる仕組み。

スケーリング則 Scaling laws

AIモデルを大きくし、より多くのデータと計算で学習させるほど、性能が一定のパターンで上がるという経験則。規模がある段階を超えると、明示的に設計していない新しい能力が立ち現れることもあります。

事前学習 Pre-training

最初の学習段階。膨大なテキストデータからパターンを学び、言葉と知識の土台をつくります。

ファインチューニング（微調整） Fine-tuning

事前学習のあとの追加学習。指示に従い、役立つ応答をし、有害な内容を避けるよう調整します。

コンテキストウィンドウ Context window

AIが一度に考えられる情報量。会話の履歴や、共有した文書を含みます。モデルごとに上限があります。

ハルシネーション Hallucination

もっともらしく聞こえるのに、実際には誤っていることを、AIが自信たっぷりに述べてしまう種類の誤り。

知識のカットオフ（日） Knowledge cutoff date

AIモデルが学習した時点。それ以降の世の中のことは、もともと知りません。

推論モデル／拡張思考モデル Reasoning or thinking models

複雑な問題を一歩ずつ考えるよう設計されたAIモデル。論理的な推論が必要なタスクに強みを示します。

temperature（温度） Temperature

AIの応答のランダムさを調整する設定。「高い」と多様で創造的な出力に（沸き立つお湯のイメージ）、「低い」と予測しやすい的を絞った応答に（氷の結晶のイメージ）。

検索拡張生成（RAG） Retrieval augmented generation (RAG)

AIモデルを外部の知識源につなぎ、正確さを高め、ハルシネーションを減らす技術。

バイアス（偏り） Bias

AIの出力に見られる、特定の集団や視点を不当に有利／不利にあつかう体系的な傾向。多くは学習データの傾向を反映します。

プロンプト作成（プロンプトエンジニアリング）の概念 Prompt Engineering Concepts

プロンプト Prompt

AIモデルに与える入力。指示や、共有した文書なども含みます。

プロンプトエンジニアリング（プロンプト設計） Prompt engineering

望む出力を引き出すために、効果的なプロンプトを設計する営み。分かりやすい伝え方と、AIならではの工夫を組み合わせます。

思考の連鎖プロンプト（chain-of-thought） Chain-of-thought prompting

AIに問題を一步步解かせる工夫。複雑なタスクを小さな段階に分け、AIがあなたの考えをたどりやすくして、より良い結果を導きます。

例を見せて教える（few-shot／n-shot） Few-shot learning (n-shot prompting)

望む「入力→出力」のかたちを例で示してAIに教えること。「N」は示す例の数。長い説明なしに、ほしいものを理解させます。

役割・ペルソナの設定 Role or persona definition

応答するときにAIに演じてほしい人物像・専門性・話し方を指定すること。「UXデザインの専門家として話して」のような一般的な役割から、具体的な人物像まで指定できます。

出力の制約・形式の指定 Output constraints / formatting

ほしいものをきっちり得るために、AIの応答の形式・長さ・構成などを、プロンプトの中ではっきり指定すること。

「まず考えさせる」アプローチ Think-first approach

最終的な答えを出す前に、AIに推論の過程をたどらせること。より丁寧で、よく練られた応答につながります。